

ワイドレンジフラッシャーリレー取扱説明書

商品番号 05-08-0083

適応

- ・DC（直流）12V専用
- ※バッテリーレス車の前後交互点灯のリレー（3極端子）やポジションランプ機能付きのリレーとの互換性はありません。
- ※バッテリーレス車のAC（交流）12Vではご使用頂けません。

① まえがき

この度は、弊社製品をお買上げ頂き有難うございます。
ご使用に付きましては、下記内容をご理解の上ご使用下さいませようお願い申し上げます。
取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。万一お気付きの点がございましたら、お買上げ頂いた販売店にご相談下さい。
◎イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合がありますので、予めご了承下さい。

☆ご使用前に必ずお読み下さい☆

○取り付けの際には、工具等を準備し、取付け要領に従って十分注意して作業を行って下さい。尚、この取扱説明書は基本的な技能や知識を持った方を対象としております。取り付け等の経験の無い方、工具等の準備が不十分な方は、技術的信用のある専門店へご依頼されることをお勧め致します。
○本製品使用中に発生した事故、怪我、物品の破損等に関して如何なる場合においても当社は賠償の責任を一切負いかねます。
○この商品を取り付け使用し、当製品以外に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。
○他社製品との組合せは保証対象外になりますのでご遠慮願います。
○商品を加工等された場合は保証の対象にはなりません。

○性能、デザイン、価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。
○クレームについては、材料及び、加工に欠陥があると認められた商品に対してのみ、お買上げ後3ヶ月以内を限度として修理又は交換させて頂きますが、工賃その他費用は対象となりません。
○この取扱説明書は、本商品を破棄されるまで保管下さいませようお願い致します。

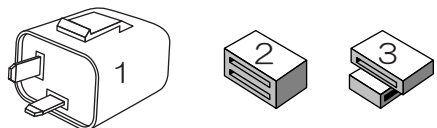
⚠ 注意 この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害が想定される内容を示しています。

○作業を行う際は、必ず冷間時（エンジンやマフラーが冷えている時）に行ってください。（火傷の原因となります。）
○作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。（部品破損・ケガの原因となります。）
○製品およびフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行ってください。（ケガの原因となります。）

⚠ 警告 この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

○技術、知識の無い方は、作業を行わないで下さい。
（技術、知識不足等による作業ミスで、部品破損により、事故につながる恐れがあります。）
○作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行ってください。
（作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。）
○点検、整備を行った際、損傷部品が見つかった場合、その部品を再使用せず損傷部品の交換を行ってください。
（そのまま使用すると、部品破損により、事故につながる恐れがあります。）
○エンジンを回転させる場合は、必ず換気の良い場所で行ってください。密閉したような場所では、エンジンを始動しないで下さい。（一酸化炭素中毒になる恐れがあります。）
○走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みの有無を確認し、緩みが有れば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。（部品の脱落等で、事故につながる恐れがあります。）
○走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。（事故につながる恐れがあります。）
○点検や整備を行う際は、当取扱説明書やサービスマニュアル等に記載されている、要領、手順に従ってください。（不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。）
○指定した部品以外の部品使用は、一切行わないで下さい。（部品破損により事故につながる恐れがあります。）
○気化したガソリンの滞留は危険性が有る為、通気の良い場所で作業を行ってください。

② キット内容

		
番号	部品名	個数
1	ワイドレンジフラッシャーリレー	1
2	クッションラバー 平行穴タイプ	1
3	クッションラバー 直行穴タイプ	1

クッションラバーの補修はHONDA純正部品販売店にてお買い求め下さい。
ホダ 純正部品番号：38306-KK4-000（サバ ヌツソ, ウィンカーリレー）
ホダ 純正部品番号：38306-GE7-000（サバ ヌツソ, ウィンカーリレー）

③ 特徴と構造上の注意点

特徴
●本製品は広範囲のワット数に対応したワイドレンジ仕様となっています。 低いワット数（2Wから）から高いワット数（80Wまで）のバルブを適正速度（85回/分）で点滅させる事が出来ます。 [前後：LED]や[前後：白熱電球]はもちろん、[前：電球、後：LED]など、異なるワット数の組み合わせにも対応。
●多くのバイクの純正品と互換可能な形状となっています。 ・本体サイズ：35mmX35mmX24mm（クッションフック、端子部除く） ・端子配置：2極、直角配置。 ・クッション穴サイズ：幅17mm、貫通距離15mm

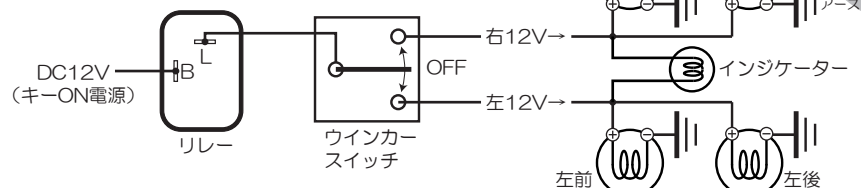
構造上の注意点
※本製品はデジタル式でありながらアース直結配線を持たない回路構造で、デジタル回路駆動の為に点滅中は常にバルブに電流を送り続けます。
→「ウィンカースイッチON」→「電源電圧から約-2.6V程度の準備電圧をバルブに加える」 例）電源が12.8Vの時、10.2Vの準備電圧をバルブに加えます。
→「回路電流が約27mA以上でリレーが機能し、タイマーにより電流を制御し点滅を繰り返す」 点滅消灯時、LEDバルブは消灯しているように見えますが、約5割から7割（LEDバルブの種類により異なる）の待機電圧が加わったままとなります。 ※前後どちらかにでも白熱電球を使用している場合、待機電圧は、ほぼOVまで下がります。
※上記構造上、予備電圧時の電流量が約27mA以下のLEDバルブでは点滅を開始出来ません。特に白色LED製品は標準電圧以下のなると電流量が極端に下がるので点滅出来ない可能性があります。
※電源電圧が低く、準備電圧及び電流量が不足すると、点滅不具合が発生します。点滅しない場合はバッテリー電圧を確認して下さい。最低限必要な電源電圧は、使用するバルブにより異なります。
※弊社製スーパーマルチDNメーターに本製品とLEDバルブを組合わせた場合、点滅中は常に電圧を認識し、メーター内のターンインジケーターは点灯したままとなります。予めご了承ください。
※AC（交流）電源では使用出来ません。仮に接続した場合、下記不具合が発生します。
「白熱バルブで使用了した場合」 ・輝度変化が少なく、正常に点滅しません。 ・マイナス側の電圧が常にバルブに電気を流し、見た目の輝度変化は100%→50%→100%→50%・・・となります。
「LEDバルブで使用了した場合」 ・点滅しますが、輝度が低く視認性に問題があります。 ・LEDはプラス側の電圧でのみ点灯します。交流電源のプラス電圧だけを使うので、DC電源と比べ電圧印加時間は半分となり、輝度も大幅に低くなります。見た目の輝度変化は50%→0%→50%→0%・・・となります。

③ 特徴と構造上の注意点

左右共有型ターンインジケータの点灯回路について

※左右のウインカーのプラス配線間に橋を架けるように接続されているターンインジケータは白熱電球の特性を生かした点灯回路であり、基本的にLEDバルブではこの構造使う事は出来ません。
 ・左右のウインカー用を1つで共有しているターンインジケータに多い構造です。
 ・インジケータの設置には配線の改造（次ページに記載）が必要となります。

ウインカー：全て白熱電球（ノーマル時）
 インジケータ：白熱電球（ノーマル時）

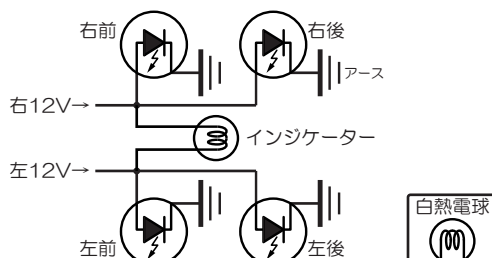


- ・スイッチを左にするとインジケータの左側コードに12Vの電圧が印加されます。
- ・印加されたプラス電圧は右ウインカーのバルブを通りアースへとつながり、インジケータバルブも点滅します。
- ・インジケータバルブのワット数は低く（抵抗値が高い）、電流量をとても少なく制御するので、右ウインカーバルブは点灯しません（フィラメントに電流が流れるが、電流量が少ない為に光らない）。

左右共有型ターンインジケータの不具合例

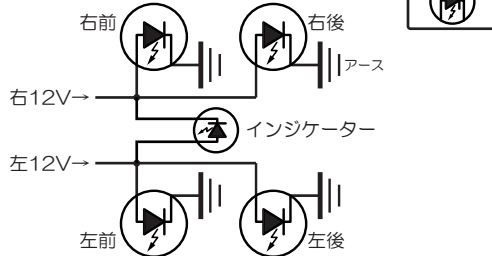
ウインカー：全てLEDバルブ
 インジケータ：白熱電球

- ・全てのウインカーが同時に点滅（ハザード状態）してしまいます。
- ・左ウインカーへの電圧印加と共に、インジケータを経由して右ウインカーにも電圧が印加される為です。
- ・右ウインカーのLEDバルブが電流量をとても少なく制御するので、インジケータはわずかな輝度で点灯します（もしくは点灯しない）。



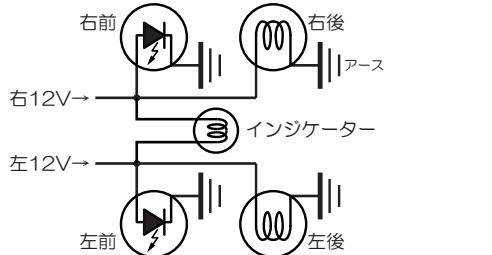
ウインカー：全てLEDバルブ
 インジケータ：LEDバルブ

- ・このインジケータ回路はウインカーを出す方向によって、プラスマイナスの極性が反対になる為、LEDバルブを使う事は出来ません。
- ・仮に右図のようにインジケータのLEDバルブを左用に接続して、スイッチを左にすると左ウインカーの点滅と同時に右ウインカーとインジケータが暗い輝度で点滅してしまいます。
- ・このままの配線でスイッチを右にした時は、右ウインカーは点滅しますが、左ウインカーおよびインジケータは点灯しません。



ウインカー：LEDバルブと白熱電球が混在（左右同一）
 インジケータ：白熱電球

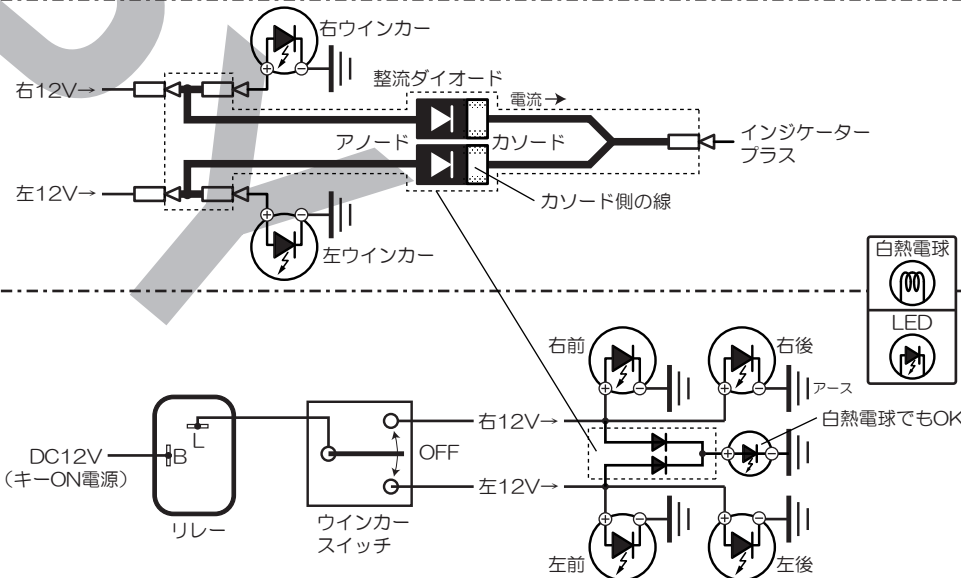
- ・ウインカー、インジケータ共に正常に機能しているように見えます。
- ・正確にはインジケータがノーマル時よりも少し暗く点灯していますが、実用可能です。



③ 特徴と構造上の注意点

左右共有型ターンインジケータの作り方 ※ある程度の電子工作技術が必要です。

- ・下図を参考に左右ウインカーのプラス配線から線を分岐させ、それぞれに整流ダイオードのアノード側を取り付けて下さい。
- ・カソードを1つに結合しインジケータのプラスコードに接続して下さい。
- ※整流ダイオードはアノードからカソードにのみ電流が流れて、その反対には流れない電子部品です。端に白や灰の線が入っている方がカソードで、線の無い方がアノードです。
- ※整流ダイオードは、入手しやすい[耐電圧50V、耐電流1A]や[耐電圧100V、耐電流1A]などでOKです。（インジケータが3.4Wの白熱電球の場合でも電流量は0.3A弱だけです）
- ※整流ダイオード無しで接続すると、左右のウインカーが同時に点灯してしまいます。
- ※当社で整流ダイオードは用意しておりません。電子部品販売店様にてご購入下さい。



左右独立型ターンインジケータの点灯回路について

- ・左右のウインカーにそれぞれ並列に配置されているインジケータは、左側と右側とが完全に分かれており、自由に白熱電球からLEDバルブへの交換出来ます。
- ・左用と右用の2つのインジケータのあるバイクに多い構造です。

ウインカー：全て白熱電球（ノーマル時）
 インジケータ：全て白熱電球（ノーマル時）

